

韓国薬学研修報告

3年 15A080

鈴木 里菜

8月23日～26日、本学から4名の学生が参加し、韓国での4日間の海外研修が行われました。研修では、東亜製薬の工場、漢陽大学薬学部や大学病院、調剤薬局、韓方市場を見学しました。また、漢陽大学の学生との交流も行いました。今回、私は主に漢陽大学付属病院についてまとめました。

☆漢陽大学付属病院

1972年にアジアで最も大きい病院として設立されました。膠原病・リウマチ科で有名な病院であり漢陽大学ソウルキャンパスの裏に位置しています。

現在病床数は840床、25の診療科があり、1900名を超える職員と200名のスペシャリスト、560名の看護師が働いています。

院内見学においては、栄養サポートチーム長の薬剤師の方が案内してくださり、薬剤部は外来用調剤室、院内用調剤室に分かれていました。外来用調剤室は窓口と連結しており、日本と同じくパネルに表示される番号で患者さんに薬を渡すシステムでした。また、日本と同じく一包化処方が多く、自動分包機の上に監査を行っていました。麻薬は鍵のかかる金庫に保管されていました。



薬剤師の男女比は韓国全体で見ても女性の方が多かった。漢陽大学付属病院では、夜勤の人は決められており、昼間に兵役の代わりに大学院へ通い、夜勤をする男性が多いそうです。

韓国でも日本と同じく医薬分業が進められており、医師の処方箋に基づき薬剤師が調剤を行います。しかし、日本の相違点として看護師を経由して監査、そして医師に疑義照会をするという点が見られました。

また、未熟児用TPMや抗がん剤の調製、無菌操作を行う調製室も見学することができました。日本と同様、調製時にはガウンやマスク、手袋などを着用していました。

日本では成人用TPNも作成するが、韓国では未熟児用のTPNのみ作成するようでした。

昨年から救命センターが開設され、手術室や病棟を兼ね備えていました。また、韓国では地域ごとに搬送される病院が決められていることが分かりました。



☆感想

今回の研修に参加して、韓国トップクラスの製薬工場や日本以外の国の医療現場を見て、聞いて、感じるという非常に貴重な経験をする事ができました。

また、同時に韓方市場など韓国の文化にも触れ、漢陽大学の学生の方々と交流も英語、韓国語、日本語などを使いコミュニケーションをとることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

研修で学んだことを忘れず、広い視野を持って、これからも様々なことに挑戦し、努力していきたいと思いました。

